

ちば里山新聞

(第66号)
 編集発行 NPO法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

千葉県主催チェーンソー講習会・全3回が終了しました!

第1回入門講座/基本編は、9月24日(日)ちば里山センターで午前中に林業・木材製造業労働災害防止協会(林災防)千葉県支部森講師からチェーンソーの安全な使い方や禁止事項を学びました。午後は袖ヶ浦市の椎の森に移動して、杉丸太を使って上切り、下切り、次に杉の欠頂木を利用して水平切り、受け口、追い口の切り方を受講生20名、4班に分かれ手際よく実習しました。



椎の森にて森講師右端

第2回入門講座/実践編は、10月21日(土)午前中、同じ袖ヶ浦市平川公民館富岡分館において、県森林組合連合会の木村講師によりチェーンソーによる伐倒作業の基本についての講義がありました。午後は木更津市にある「きさらづ里山の会」の活動地に移動して杉林の間伐作業(下層のクロモジの日当たりを良くする)を行いました。講師に県森林組合南部支所小林氏、サブ講師として岡部塾卒業生の天川氏、友塚氏の計3名が加わり、やはり4班に分かれて実習を行いました。



チルホールにて牽引

第3回かかり木処理講座/上級者編は、11月11日(土)の午前中、富津市民ふれあい公園のビジターセンターで、2回目と同じ小林講師にてチェーンソーかかり木処理に関する安全研修についての講義がありました。午後は公園内のふれあいの森ゾーンに移動して、かかり木を実際に作り、チルホールを使ってかかり木の上部から外す、木元から外す等の実習を行いました。

今回第1, 2回入門講座を受講された森のようちえん「さくらんぼ」を主催している真鍋弥生さんが感想を綴ってくれたので紹介します。

真鍋弥生さんの感想

9月24日(日)袖ヶ浦市に行き、ちば里山センター&椎の森でチェーンソー入門講座/基本編を受講しました。10年ほど前に農家の手習いとしてチェーンソーを使って玉切りをしていました。いよいよ使用機会が増えそうなので(必要に迫られて?)、安全面や技術面について学びたくて受講しました。座学・実習ともに基本的なところを整理でき、道具選びについても大変参考になりました。今回の実習では、玉切りの基本的な切断方法と受け口、追い口の入れ方のほか、ツルの役割についても学びました。実習はグループに分れて行ったので、チェーンソーを扱う時間も多く、さらに他人の作業を客観的にも見る事ができたことも勉強になりました。



木村講師と受け口の確認

チェーンソー操作の注意点としては

- ・チェーンソーブレーキは、毎回アイドリングに移るとき手首で押す癖をつける。
- ・トリガーは、親指で引くほうがいい角度のときは親指を使う。

などなど、他人が使っているのを見ているときのほうがよく気付くと思いました。

10/21(土)の実践編では、午前の講習会と昼休みに同じ佐倉市の南條さん、友塚さんと、たまたまご一緒に交流できました。南條たちユウカリ木こり倶楽部の今後の活動にも期待。午後は「きさらづ里山の会」の森にて、立木の伐倒・枝払い・玉切り作業を実習しました。チェーンソーのブレーキ手首の動きに慣れてきたようで、自分に適切なチェーンソーの大きさもわかってきた気がします。斜面で構える位置、退避方向などを実践的に勉強できました。枝払いにみんなが夢中になってしまう感覚も、自分でやってみてよく分かりました。

いつでも行ける森に 子どもの森の試み 松戸里やま応援団

松戸里やま応援団でオープンフォレストを始めたのは 2012 年。今年 11 回目を終わりました。直近ではコロナ感染対策で中止、毎年 5 月の開催ですが、2021 年度は 10 月に開催しました。松戸の森全体で第 1 回目から各回の集客は 2000 人前後でした。

2022 年に公開された「松戸市みどりの基本計画」によれば、市民の緑に対する意識を問うたアンケート調査では「みどり」の量は「多い」と感じている市民が多く (46.5%)、緑地や河川などの自然環境に「満足している」と感じている市民は多くないという結果 (約 20%) でした。

オープンフォレストについて知っているかを聞いたところ、「知っている」と答えた人は 5% 以下という結果になりました。

11 回続けてきたのに、知っている人は少ない。市民の「みどり」に対する感じ方はその程度なのかと愕然としました。

そして、「基本計画」では「みどりと暮らし、松戸に暮らし、豊かに暮らし」をキャッチフレーズとしました。オープンフォレストの委員会はオープンフォレストの期間だけではなく、暮らしの中にある森の姿を目指してはどうかと「暮らしの森会議」に模様替えすることにしました。

毎月一回土日の休日を利用して松戸の里やまを楽しんでもらおうと、この第 1 回目を 7 月 9 日に里やま応援団 囲いやまの森で「子どもの森」と名付けて開きました。

囲いやまの森といえば、最近の 3 年に子育て団体を中心に「遊びの森」を 11 月に開催し、子どもが楽しめる遊びを中心にしたイベントを行ってきました。この催しはビーズを使った腕輪づくり、竹のクラフト、石のペイント、コリントゲーム、スライムづくりと子どもたち用にしっかりした遊び道具を用意し、ステージを使った子ども落語や大型絵本の読み聞かせ、コカリナコンサートなども行い手間がかかるものでしたが、「子どもの森」は森に来た子どもたちが自分の好きなように遊んでいくことが出来るメニューとしました。

7 月の第 1 回の来場者は 18 人でした。竹を切りたいということで親子にノコギリを持たせて伐竹してもら



い、倒れるとき竹が傾いてゆっくり倒れていく様子と倒れた時のドスンという音を体験してもらい、倒した竹で竹ぽっくりやコップを作りました。とても贅沢な森遊びです。

9 月 10 日の 2 回目は、来場者は子ども 7 人を含んだ 13 人でした。前回、竹の端材を敷いて「歩ける竹の道にしたらどうか」と道づくりを途中のまま残してしたのを受けて、子どもたちは「竹を割って細かくして」と注文が来ました。



新たに 2 本竹を伐倒し、半割の端材をたくさん作り、道を完成させました。楽しそうなので子どもに交じって大人も竹の道を散歩してみました。ヒヤッとする冷たい感触が気持ちよく、その場が笑顔に包まれました。

そのほかにもシュロの葉で作ったバッタや金魚づくり、森の探検隊に参加したり、ブランコ、ハンモックや木登りと一日中遊んでいる姿が印象的でした。

来場者は里やま応援団のお友達、近所に住まいがある家族、SNS で知った人、リピーターと来場者の属性が分かり、定着する形が何となくつかめたのかなと感じました。(記：藤田隆)

ちば里山カレッジ第1回「里山活動と木育」が開催されました！

令和5年度の第1回ちば里山カレッジは、7月1日に「里山活動と木育」をテーマに開催されました。トップバッターのNPO法人木育・気づかいネット多田知子事務局長からは、地域材で学ぶSDGs教材プロジェクトを立ち上げ、地域材を利用して学校で図工等の教材に、県内の森林組合や工房等から出てくる廃棄材の利用を進めた。その結果、千葉県の木材を身近に感じて、学習意欲が高まったというアンケート結果がでて、木育活動の広がり可能性が示されたとの非常に興味深い講義でした。



多田講師と司会進行の藤田氏



千葉県森林課東講師

次は、千葉県森林課東正伸技師より「今、木育に求められるもの」と題する講義でした。①森林が少ない(30%)、②木育を普及する人材が不足、③県内産の木材値段が高いという千葉県の課題への県の取り組みとして、①木育コーディネーターの育成、②ちばの木のおもちゃ貸出制度を実施、加えて森林環境税を利用して「ちばの木の香る推進事業」を展開しているとの話でした。

昼食後、さんむフォレスト稗田忠弘代表より「サンプスギを活かした地域おこし」として、千葉県の代表であるサンプスギを活かし、スギ非赤枯性溝腐れ病の被害木も階段など長尺物以外に活用し、さらに残材は薪ストーブ、ペレットストーブ等で灰になるまで使い切ることで、活用できるという内容でした。さらに、サイディング並みの安価な板張り、フォレストテーブルの開発、ケミカルレス住宅のための接着剤を使用しない耐力壁「さんむパネル」を開発し、サンプスギでつくる公共施設として山武市歴史民俗資料館の山人壁/外壁、山武市成東東中学校、JR日向駅前上屋などで利用されているそうです。



さんむフォレスト稗田講師



教育支援ボランティア後藤講師

最後の講義は、山武市付近の小学生、幼稚園児に対して独自の木育を行っている教育支援ボランティアの後藤健之氏でした。講義にパソコンを一切使用せず、持参した手作り鉛筆と鉛筆立、しの笛、里山小物等を使い、言葉巧みに聞く人を引き込んでいきました。里山で気に入った色んなものを拾い集め、作成した作品を里山からの贈り物として、園児を集めてプレゼントしているそうです。また「トントンサクサク工作」では、小刀、金槌を使った工作を行っており、これについては事前に危険予知トレーニングを行っているので、今まで事故は何一つも起きてないとのこと。子供たちには森を仰ぎ見て、葉のせめぎ合いなどを五感で感じ取ってもらい、地面では小さな虫の動きを感じてもらい、子供と付き合ううえで、とても大事なことを教えられたと思えました。里山で集めたドングリ、木片、草花などすべてが教材となる。まさに里山に生きて人生そのものが、里山と共に歩む人そのものでした。

2022年度千葉里山アワード県知事賞授賞記念イベントが開催

10月7日(土)、今年度の千葉里山アワード県知事賞を受賞した SaToYaMa よくし隊が活動する「竹・いろいろの里」(市原市 不入斗^{いりやます})で、受賞記念イベントが開催され、参加しました。主催者、県森林課より挨拶の後、「こもれびひろば」などを散策の後、竹灯籠、竹の花器、竹を熱線で字を切り取る作業などの竹細工を班に分かれて楽しみました。近くには子供たちが遊べるすべり台、ブランコ、綱渡りのロープと揃っており、お昼には主催者のご厚意でミニカップヌードルが振る舞われ、しかも注がれたお湯は竹で沸かしたもので香り高く、普段経験できないものでした。



ミニカップラーメンに竹のお湯

里山じまん ⑬

特定非営利活動法人川島会



自分達の住む市原市に「何かお役に立てる事がないか!」と思い、2005年に地域の環境、福祉、子どもたちの未来の為に教育に関わる市民ボランティア『地域応援団川島会』を設立し、不法投棄物の撤去作業や様々な活動をしてきました。特に養老川河川敷クリーン大作戦は年2回、17年間続けています。



活動を続ける中でSDGsに賛同し、地球温暖化防止にも繋がる里山再生、里山保全に特化した『NPO法人川島会』を2016年に設立しました。現在の活動地は市原市の住宅地で公民館や民家に隣接した1.4haの20年以上放置された竹林と雑木林です。

5年後には近隣の方や子供達が楽しく集える場所にする事を目標に活動しています。

活動メンバーは20代~80代と年齢も様々で、女性も活躍しています。みんなで汗を流しながら楽しく活動し、少しずつ整っていく

里山を見ながらのお昼ご飯は格別です。近隣の方達からも「ここが明るくなって良かった」「綺麗にしてくれて有難う」との声を頂けて活動の励みにもなっています。

私たちの活動の様子はホームページ、Instagram、Facebookにてご覧いただけます。

・Facebook :

<https://www.facebook.com/Kawashimakai.npo/>



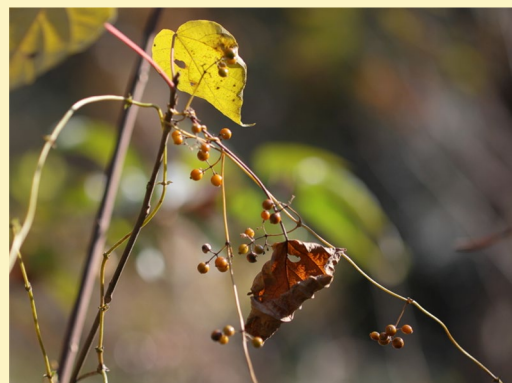
特定非営利活動法人川島会

川島ゆかり



今年2回目の里山新聞を早く発行と思ってたらいつの間にか冬へ
◆「里山の風にゆられて」の花を探していたら花は散り「ヘクソカズラ」に◆時の流れは止めようもなく年の瀬を迎えて柚子湯に浸る今日この頃です◆金にまみれた政治家は何をやっておるのだ! 居直っても何も出て来ません◆しかし時は待ってくれませぬ 来年こそは新しいプランを立てて頑張りたいものだ (Y.A)

里山の風にゆられて ⑫



ヘクソカズラ<屁糞葛>アカネ科ヘクソカズラ属

つる性多年草で、やぶや道端など至る所に生える雑草である。夏に中心部が赤紅色の白い花を付けるが子供の頃その花を取り鼻の天辺に付けてよく遊んだものだ。葉や茎を触ると、何とも言えない臭いにおいがするので屁糞葛の名前がある。秋も過ぎるとその匂いも消え、茶色の実が晩秋の風情となる。

写真・文 赤松義雄 R5.12.7 袖ヶ浦市椎の森

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日 9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>